

科目	心理学統計法Ⅱ	単位数	2
担当教員	多田 美香里		
履修対象	心理科学科 2 年春学期		
概要と目的	心理統計法Ⅰに続いて心理学の研究で用いる基本的な統計手法を学ぶ。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1) 心理学で用いられる統計手法について概説できるようになる。</p> <p>(2) 論文の統計的記述を抵抗なく読むようになる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1) 基本的な心理統計の内容を理解し、データを用いて実証的に考えるようになる。</p> <p>(2) ニュースやインターネット等で得られる情報に対して科学的・客観的判断をもって理解する。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1) 心理学的問題に対して適合した統計的手法を自ら選択できる。</p>		
授業計画			
1	心理学で用いられる統計手法について概説するとともに、データを用いた実証的な考えについて議論する。		
2	t 検定／独立な 2 群の平均値差に関する t 検定 (1)		
3	t 検定／独立な 2 群の平均値差に関する t 検定 (2)		
4	t 検定／対応のある t 検定		
5	復習／t 検定を用いた研究事例		
6	カイ 2 乗検定 (1) ／適合度の検定		
7	カイ 2 乗検定 (2) ／独立性の検定		
8	復習／カイ 2 乗検定を用いた研究事例		
9	分散分析／1 要因分散分析 (1)		
10	分散分析／1 要因分散分析 (2)		
11	復習／1 要因分散分析を用いた研究事例		
12	分散分析／2 要因分散分析 (1)		
13	分散分析／2 要因分散分析 (2)		
14	分散分析／2 要因分散分析 (3)		
15	復習／2 要因分散分析を用いた研究事例、まとめ／その他の統計の紹介、心理統計の特徴の復習		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	2800
参考書	南風原朝和・平井 洋子・杉澤 武俊 (2009) 心理統計学ワークブック -- 理解の確認と深化のために 有斐閣 南風原朝和 (2014) 続・心理統計学の基礎 -- 統合的理解を広げ深める 有斐閣 森敏昭・吉田寿夫 (1990) 心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 田中敏・山際勇一郎 (1992) ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 教育出版 山内光哉 (2009) 心理・教育のための統計法 サイエンス社		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：心理学で用いる基本的な統計手法について理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法：受講態度（積極性・コメントの妥当性）10 点、課題（宿題、小テスト、小レポート、コメント）の達成度 40 点、学期末試験 50 点とする。		
留意点	毎回宿題がある。また、定期的に課題やコメントの提出を求める。授業中に電卓を用いた計算を行うことがある。		
準備学習	各回のテーマについて教科書の該当する部分を読み、わからない用語や項目について各自で調べてノートにまとめてくること（1 時間程度）。 授業終了後マナバに掲載している課題を期限までに行い提出すること（1 時間程度）。		
備考	毎回の宿題や課題については解答例や採点結果を示すため、各自の学習の参考にすること。	No.	PY621012